

近代化産業遺産に認定されました

11月30日(金)に横浜市で開催された「地域活性化のための近代化産業遺産保存・活用シンポジウム」。このシンポジウムで、日光金谷ホテルを中心とした日光観光関連遺産群と、足尾銅山関連遺産群などに、経済産業省から近代化産業遺産認定証が授与されました。この事業は、地域における産業や技術発展の歴史などを象徴する優れた産業遺産を選定し、近代化産業遺産として認定するというものです。

選定にあたっては、まず、幕末から戦前にかけての先人の歩みを象徴する産業遺産が募集されました。この公募に応募のあった全国の産業遺産などは、専門家で構成される産業遺産活用委員会が事実確認などが行われ、取りまとめられました。最終的には、各地域に点在する約40か所について、それらに関連づける枠組みが地域史・産業史を軸に33のストーリー(物

語)にまとめられました。

市内では、「外貨獲得と近代日本の国際化に貢献した観光産業草創期の歩みを物語る近代化産業遺産群」というストーリーの構成遺産に、日光金谷ホテルや旧大名ホテル(日光総合支所)、JR日光駅など5件が、「銅輸出などによる近代化への貢献と公害対策への取り組みに見る足尾銅山の歩みを物語る近代化産業遺産群」というストーリーの構成遺産に、古河掛水倶楽部や現在足尾銅山観光として活用されている通洞坑など22件が認定されました。



写真の説明

- ①日光金谷ホテル本館、別館
- ②旧大名ホテル(日光総合支所)
- ③古河掛水倶楽部
- ④通洞坑

そば喰い稲荷新そばまつり



11月24日(土)、25日(日)の2日間、そば喰い稲荷新そばまつりが開催されました。初日の朝、今市手打そばの会がそば喰い稲荷と呼ばれる浄泉寺境内にある澤蔵司稲荷にそばを奉納し、1年間のお礼と今後のますますの商売繁盛を祈願しました。その後、市緑ひろばに会場を移しお祭りが行われ、訪れた人たちは、今市産のそば粉を使用した新そばを楽しみました。

平成19年度市政・教育功労者等表彰式

11月23日(金・祝)、今市文化会館で平成19年度の市政・教育功労者等表彰式が開催されました。

市政功労者等表彰では、地方自治など、各分野で市政に功労のあった127名の表彰と、市への寄付や奉仕活動、模範母親などの善行表彰として12名・2団体への感謝状・表彰状の贈呈、国の各省大臣表彰を受賞された27名・6団体への賀状の贈呈が行われました。教育功労者等表彰においては、各



模範児童の代表として表彰状を受け取る角田健輔さん(今市小学校)

種委員などで教育行政に功労のあった14名の表彰と、国や県から教育功労者などにより表彰を受けた方、およびスポーツ大会などにおいて優秀な成績を収められた方82名・9団体への賀状の贈呈、教育振興のための寄付をされた教育関係協力者への感謝状贈呈、また模範児童39名・模範生徒43名への表彰が行われました。受賞者を代表して八木澤勝久さん(鬼怒川温泉大原)が、「日光市の発展のため、精進していきたく」とあいさつしました。

生岡神社子供強飯式



11月25日(日)に七里の生岡神社で行われた子供強飯式。この神事では、地元の少年が山伏と強力に扮し、口上を述べます。また、強飯頂戴人が山盛りの里芋を食べさせられたり、竹馬を乗りまわしたりと、輪王寺の厳粛な強飯式とは対照的に、とてもユーモラスな神事です。今年、神山達也さんが山伏を、福田広美さんが強力を演じ、見事に大役を果たしました。

安全で安心なまちづくり推進市民大会

大沢小学校の一年生だった吉田有希ちゃんが連れ去られ、殺害されるという痛ましい事件からちょうど2年が経過した12月1日(土)、藤原総合文化会館で、「日光市民の安全で安心なまちづくり推進市民大会」が開催されました。

大会は、参加者全員が有希ちゃんにささげた一分間の黙祷で始まり、その後、栃木県警察本部の目下刑事部長により、事件の捜査概況が報告されました。



スクリーンを使って事件の捜査概況が報告されました。

続いて「市民が主役の安全で安心なまちづくり」をテーマにしたシンポジウムが開かれました。パネリストの一人、芽島今市警察署長は、「警察も頑張るが、地域の安全は地域の人たちの連携がないと実現しない」と指摘しました。司会を務めたとちぎボランティアNPOセンターの藤本所長は、「地域のコミュニティづくりが大切であり、地域再生にもつながる」と結びました。

また、大会後はソウルオリンピックメダリスト山口香氏の講演が行われました。



消防団通常点検



今市、日光、藤原、足尾、栗山の各消防団の通常点検が、それぞれ地域で行われました。

12月9日(日)に大谷川グリーンパークで行われた今市消防団の通常点検では、服装点検や機械器具点検、ポンプ操作に続き、放水点検が行われました。団員の皆さんがそろって放水を始めると、見学に訪れた人たちが一斉にカメラのシャッターを切っていました。

今月の表紙 一日巫女さん体験



11月18日(日)、大室高麗神社で一日巫女さん体験が行われました。この一日体験は、巫女の仕事を一般の女性に体験してもらおうというもので、県内の神社40社が参加する県神社広報会議が主催し、毎年県内各地の神社で開催されています。

表紙の写真は神事舞の一種である浦安の舞を体験する山口多恵さん(宇都宮市)です。「舞楽に興味があったので応募しました」という山口さんは、初めてとは思えないほどきれいなしぐさで舞を披露していました。

この日は県内外から17人が参加し、祝詞の清書や玉ぐしの上げ方などを習いました。夏に横浜市から家族で移住してきたという高橋あんずさん(鬼怒川温泉大原)は、「一日も早く日光市に解け込むため、市内の行事に積極的に参加したいと思応募しました。巫女の体験は、とても穏やかな気持ちになりますね」と話してくれました。

